

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

Vol.112



ベルリン・フィルハ重奏団



©Hideya Amemiya

オルガンとその仲間たちシリーズ2013
メサイア～開館20周年特別公演～

インタビュー 榎本大進
メサイア ～開館20周年特別公演～
SPAC『忠臣蔵』



SPAC - 静岡県舞台芸術センター『忠臣蔵』

メディキット 県民文化センター

公益財団法人 宮崎県立芸術劇場

三味線からヴァイオリンへ

アイザックスターンホールでは、暮れからお正月にかけて、日本のヴァイオリンの歴史をたどるにふさわしい演奏会が並んでいます。12月7日(土)の「ヴァイオリンを聴く〜前橋汀子の世界」と、1月23日(木)に榎本大進さんが出演する「ベルリン・フィル八重奏団」演奏会です。

西洋の楽器ヴァイオリンは、明治維新より早く江戸時代の終わりごろに、外国人宣教師たちによって日本に持ち込まれました。

尾張名古屋で三味線づくりの老舗を支えてきた鈴木政吉は、明治政府の音楽教育の大改革で西洋音楽が中心に変わることを知ると、いち早く三味線づくりをやめてヴァイオリン製造に乗り出します。そして、明治33年ごろにはヴァイオリン工場を立ち上げて、日本にヴァイオリン時代の幕を開けます。

第1次世界大戦が終わると、日本にはヨーロッパからもヴァイオリンの注文が殺到、鈴木商店は年間10万本を生産して世界市場を独占したといえます。

昭和に入ると美貌のヴァイオリニスト諏訪根自子が登場、1942年にはベルリン・フィルと共演、ヒトラー政権の宣伝相ゲッペルスからストラディヴァリウスを贈られ、女性を主役にヴァイオリンブームが巻き起こります。

前橋汀子さんは戦後の日本を代表するヴァイオリニストとして、1960年にはレニングラード音楽院、1963年からはジュリアード音楽院と米ソ二大大国でヴァイオリンを学び、70年代にはベルリン・フィルをはじめ欧米の名門オーケストラと共演を重ねて、国際的スケールの女性ヴァイオリニストとして一世を風靡します。その後、1990年には諏訪内晶子さんがチャイコフスキーコンクールでアジア人として初めてヴァイオリン部門で優勝するなど、日本ではヴァイオリンは女性上位の楽器というイメージが定着したように思います。

そして、現在ベルリン・フィルのコンサートマスターをつとめる榎本大進さんはロンドン生まれ、7歳でジュリアード音楽院のプレカレッジで過ごした後、ドイツのリュエック音楽院で学んだ国際派です。2010年に安川徹さんの後を継いで、31歳でベルリン・フィルのコンサートマスターに就任しました。

今回はベルリン・フィルのメンバーで構成する「ベルリン・フィル八重奏団」のファーストヴァイオリンとしての参加になります。

三味線がヴァイオリンに変わり、演奏者としては依然として女性の活躍が目覚ましいのが日本の音楽界でしたが、これからはどのような発展を辿るのでしょうか。日本の文化の未来を思いながら、前橋汀子さんと榎本大進さんの演奏会を聴くのも、大変興味深いことと思います。



ー **ベルリン・フィルにある室内楽グループの中で、最も古く80年以上の歴史を持つベルリン・フィル八重奏団ですが、現メンバーでの最初のコンサートは今年3月27日でした。最初のコンサートの感想をお聞かせいただけますか？**

現メンバーでの最初のコンサートの日は、僕の誕生日だったので。ベルリン・フィルがバーデン・バーデンでフェスティバルを行うのも初めてでしたし、とても新鮮な気持ちだったことを覚えています。もちろんフェスティバル中は、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートもあったので、リハーサル、本番の繰り返しの日々で、音楽に浸っているという感覚と、良い意味での緊張感がありました。

メンバーは、いつもベルリン・フィルで演奏している仲間たちなので、音楽の方向性や、どのような音楽を目指したいと思っているかということは、判りあっています。ひとつの音楽に向かっているという一体感が愉しいですね。

シューベルトの八重奏曲を演奏したのですが、リハーサル中に「立って演奏しよう！」ということになったのには、ちょっとびっくりしましたね。

ー **日本公演でも立って演奏するのですか？**

それはまだ決めていません。長い曲なので疲れてしまう(笑)・・・という意見もあって、これからみんなと相談します。

ー **過去のメンバーの演奏を聴いたことはありますか？**

大昔の演奏をCDで聴いたことはあります。「さすが！」と思いますが、僕たち新しいメンバーのフレッシュなところも、きっと楽しんで聴いていただけたと思います。

ー **「八重奏」という編成は、演奏なさっていてどのように感じていらっしゃいますか？**

弦楽器奏者5名、管楽器奏者3名という編成なので、シューベルトの八重奏曲のように全員で演奏する作品もあれば、普段演奏

古き佳きものは大切にしつつも、僕たちで作り上げていくんだー ベルリン・フィル 第1コンサートマスター！

かしもと だいしん
榎本大進
I N T E R V I E W

榎本大進(第1ヴァイオリン)

Daishin Kashimoto 1st Violin

1979年ロンドン生まれ。1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーでの1位ほか、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。2010年ベルリン・フィルの第1コンサートマスターに就任。2007年より赤穂国際音楽祭、2008年より姫路国際音楽祭の音楽監督を務める。

できないような編成の作品に取り組むことができる、編成の選択肢が広いというのが魅力ですね。

ー **現メンバーは、ベルリン・フィルの各パートを代表するような奏者がそろっていますね？**

そうですね!そういう意味でベルリン・フィル八重奏団は「小さなオーケストラ」です。オーケストラでは弦楽器奏者約50名が、管楽器奏者約20名と一緒に演奏しますが、八重奏団は5対3なので、僕たち弦楽器奏者ががんばらなくてはいけません!(笑)・・・

ー **今回演奏してくださるシューベルトの八重奏曲についてお話いただけますか？**

この作品を演奏するためにベルリン・フィル八重奏団が結成されたということもあり、僕たちにとって大切な作品、十八番(おはこ)の作品です。内容も濃く演奏時間も長い大曲なので、全員でもの凄く集中して良いコンサートにしたいと思います。

ー **リヒャルト・シュトラウスの「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」は、オーケストラ曲として有名ですね。**

もともとはオーケストラの作品ですが、僕達が演奏するのはハーゼンエールの編曲版。指揮者がいませんが、第一ヴァイオリンの譜面に「ヴァイオリンと指揮」と書かれているので責任重大です。リヒャルト・シュトラウスの作品は、各パートが緻密に組み合わせられています。それらが紡がれていき音楽に結実する・・・このことを実感できる作品だと思います。今からとても楽しみです。

ー **日本のファンの皆さんへのメッセージをお願いします。**

ベルリン・フィルのメンバーが作っているアンサンブルはたくさんありますが、ベルリン・フィル八重奏団は80年以上の歴史を持ち、当時から今まで活発に活動している団体です。今年からメンバーが新しくなり、古き佳きものは大切にしつつも、僕たちで作り上げてい

ベルリン・フィル八重奏団

待望の宮崎公演

2014年1月23日(木)
19時開演

アイザックスターンホール

次号でも、引き続き榎本大進さんのインタビューを掲載！
ベルリン・フィル八重奏団のメンバー紹介と、宮崎公演によせてコメントをいただいています。お楽しみに！

くんだ!という気概に溢れています。メンバー同士は音楽的にも人間的にも信頼しあった仲間たちですので、きっと充実した日本ツアーになると、今から楽しみにしています!ぜひ聴きにいらして頂きたいです。

ー **大進さんに憧れてヴァイオリンを始めたという子どもたち、ヴァイオリンをがんばっている子どもたちにも特別にメッセージをいただけますか？**

僕も、心はまだ10代ですよ!(笑)子どもたちには、今やりたい!と思うことは何でも積極的に挑戦して欲しいと思います。ヴァイオリンの練習はもちろんですが、他のことも何ごととも一生懸命取り組んで欲しいですね。やってみなければわからないこともたくさんあります。好奇心を持って経験を拓げていくことは、人生の大きな糧になるはずだから。がんばってください!

取材:ジャパン・アーツ 2013年8月4日東京にて

公演情報

ベルリン・フィル八重奏団

1/23(木)開場18:15 開演19:00

【出演者】 榎本大進、ロマーノ・トマシーニ(ヴァイオリン)

アミハイ・グロス(ヴィオラ)

クリストフ・イゲルブリック(チェロ)

エスコ・ライネ(コントラバス)

ヴェンツェル・フックス(クラリネット)

シュテファン・ドール(ホルン)

モル・ピロン(ファゴット)

【曲 目】 R.シュトラウス(ハーゼンエール編):もう一人のティル・オイレンシュピーゲル

モーツァルト:クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581

シューベルト:八重奏曲 ヘ長調 op.166 D803

【会 場】 アイザックスターンホール

【入場料】 全席指定

SS席 6,000円[会員5,400円] S席5,000円[会員4,500円]

A 席 3,000円[会員2,700円] B席2,000円[会員1,800円]

学 割 (小学生~大学生)1,000円 ※B席のみ

高校生会員 1,000円 ※A、B席のみ

オルガンとその仲間たちシリーズ2013

メサイア

2014 1/12 SUN

音楽の母ヘンデルの最高傑作！
今もなお世界中で愛される
「メサイア」を演奏家と一緒に
体感しませんか？

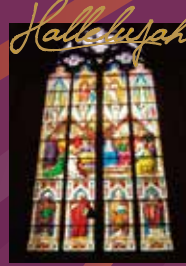


ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

音楽の父J.S.バッハと同じ時代を生きたヘンデルは、音楽の母と呼ばれています。そのヘンデルが寝食も忘れ、自分で書きながら感動するほど没頭し、24日間で完成させた大曲が「メサイア」です。全47曲から成る「メサイア」は、イエス・キリストの生涯の3つの大きな出来事を、第1～3部で構成し独唱・合唱・管弦楽・チェンバロ・オルガンで演奏します。

アイザックスターンホールに、
「ハレルヤ」の歓呼が響く！

本公演のアンコールは、大塚直哉さんの指揮で、会場の皆さまも出演者と一緒に“ハレルヤ・コーラス”を歌いましょう！
＊開場後の、午後3時20分（予定）から、「ハレルヤ・コーラス」の練習を行いますので、是非ご参加ください！



- 第1部 救世主キリストの出現の預言と誕生
- 第2部 キリストの受難と死、復活
- 第3部 この世の終焉と最後の審判、永遠の生命



大塚直哉
(企画・監修・指揮)

アイザックスターンホールの顔ともいうべき4000本あまりのパイプと4段の手鍵盤とペダルからなる大オルガン、この楽器も劇場とともに20歳を迎えようとしています。教会で祈りを捧げるとき、また一同で歌を歌うときなど、昔からオルガンが周りにいる人々を結びつける働きをしてきたことになり、劇場でもオルガンのソロ・リサイタルや講習会のほかに、「オルガンと仲間たち」というタイトルのもと、オルガンを中心にいろいろな歌手や

楽器が集まり、毎年様々なプログラムを演奏してきました。今年は、節目の年ということで、バロック時代の傑作、ヘンデルの「メサイア」を取り上げることにしました。この「メサイア」は熾烈なオペラ興行から足を洗った晩年のヘンデルが、毎年事前演奏会の形で演奏した演目であること、また教会の礼拝のためではなく劇場のために作曲した作品であることなど、信仰の有無や違いを超えてなにかを「共有」しようとしたヘンデルの意図を強く感じる作品です。この作品のなかでもっとも重要な役割を果たす合唱及び独唱は、**宮崎出身の歌手を中心に全国からオーディションによって選ばれた16人の歌手によるヴォーカルアンサンブル**が担当し、それを支えるオーケストラはここ数年の「オ

ルガンと仲間たち」の出演者でもあり、楽器体験教室の講師を務めてきたメンバーを中心に構成されています。また、歌手、オーケストラをつなぐ要の役割である「通奏低音」パートを担当するオルガンやチェンバロには、当劇場のオルガン・チェンバロ講習会の上級クラスの受講生が出演いたします。いろいろな意味で、これまで積み重ねてきたものを未来へとつなげていくことの出来る公演になったら、と一同張り切っています。みなさまもぜひ劇場に足をお運びいただき、この美しく感動的な作品と一緒に楽しみいただけたら、と思います。

大塚直哉

ソプラノ



阿萬智衣*



坂本久美



中山美紀

アルト



早坂知子



前山依加*



領家久美子*

テノール



藤井雄介



大野彰展



鹿野浩史

バス



小笠原美敬



青木海斗



大田原勉*



谷本喜基

※出演者名の横にある「*」は、宮崎出身または在住の演奏家



©Hideya Amemiya

英国ロンドンのトリニティ音楽大学声楽専攻科修了。岡宮芳生作品の米国での世界初演、サイトウキネン武満徹メモリアル、水戸芸術館「高橋悠治の肖像」などに出演。「NHKニューイヤーオペラコンサート」等、放送番組に出演。CD作品も数多く、高い評価を得ている。

波多野睦美 (メソソプラノ)

「生まれた場所」

「宮崎」という地名を耳にする時、特別なふたつの感情が呼び起こされます。

ひとつは、子供のころ祖父母の家を訪れた夏休みやお正月の、懐かしく楽しい思い出にまつわるものです。

祖母の手料理や蚊帳の手触り、お年玉のうれしさなど昭和の良き香りに満ちた「宮崎」への思い。

もうひとつは、歌というものに真剣に向き合い自分の道を進み始めた、いわば、声楽家として「生まれた場所」であるところの「宮崎」に対する思い。

このふたつの思いに共通しているのは、深い感謝です。

人の前で歌うことが生業となつたいま、聴いてくださった方々から「あたたかくて明るい、柔らかな歌に癒される」と、こちらが驚くようなありがたい言葉をいただくことがあります。それらの感想はまさに、宮崎の地を訪れた人々が抱くものではないでしょうか。明るい太陽、まろやかな水と空気、そして宮崎弁のあたたかい響き。宮崎大学を卒業してはや27年になりますが、年を重ねるにつれ、宮崎は私を根本的な意味で育んでくれた場所なのだと感じるようになりました。

このたび、宮崎にゆかりのある若い歌手の皆さんと演奏する機会に恵まれました。こんなうれしいコンサートはありません。

「宮崎」への感謝をこめて、光あふれるヘンデルの音楽を歌います。

黒木真紀子 (ソプラノ) 宮崎大学卒業 宮崎在住



私が大学に入学した年の11月に、この素晴らしい劇場が完成しました。たくさんの“柿落し”が催される中、大学の定期演奏会で真新しいコンサートホールのステージに立った感動を思い出します。あれから20年…。今、大好きな「メサイア」を、このホールで素晴らしい演奏家の皆さんと共に演奏できること、とても嬉しく感じています。

畠原功気 (テノール) 宮崎学園高等学校卒業 国立音楽大学 声楽科



今僕は、国立音楽大学の四年生でオペラを中心に学んでいます。故郷宮崎での「メサイア」公演！卒業前に是非チャレンジしたいと思い応募しました。音楽と出会い、“世界に通用する声楽家になる”という大きな夢を抱いた宮崎で歌えることをとても光栄に思います。

公演翌日は「メサイア」出演者をむかえ、
ワークショップと公開レッスンを開催！

1月13日
(月・祝)
10:00～12:00

こどものための初めての
ヴァイオリン体験教室



<対象>
ヴァイオリン未経験の
幼児園～小学生
楽器協力：エフジー弦楽器

- 参加料：500円
- 講師：大西律子、後藤佳也
- 定員：各回(30分)3名 計12名

応募締切：11月29(金)必着

※郵便・FAX(所定申込み用紙)、または劇場ホームページからお申し込みできます。

♪本公演のアンコールでは、これまでに「ヴァイオリン体験教室」に参加した子どもたちも一緒に演奏します！

1月13日
(月・祝)
10:00～12:00

公開レッスン

バロック時代の音楽の楽しさを学ぼう！

プロの演奏家から直接指導を受けられる大チャンス！
間近でプロの「音」を聴くことができる貴重な機会です

ヴァイオリン(上級クラス) 講師：桐山建志
ヴァイオリン(初・中級クラス) 講師：稲田竜斗
チェロ 講師：西沢央子
コントラバス 講師：栗田涼子



- 受講料：2,000円
- 聴講料：500円(本公演チケット半券提示の方は無料)

応募締切：11月29(金)必着

※郵便・FAX(所定申込み用紙)、または劇場ホームページからお申し込みできます。

公演情報 20周年記念公演

オルガンと仲間たちシリーズ2013 メサイア～開館20周年特別公演～

1月12日(日) 開場15:15 開演16:00

【出演者】指揮：大塚直哉

開館20周年記念合奏団(コンサートマスター/桐山建志)

ソプラノ 阿萬智衣 黒木真紀子 坂本久美 中山美紀

アルト 波多野睦美 早坂知子 前山依加 領家久美子

テノール 藤井雄介 畠原功気 大野彰展 鹿野浩史

バス 小笠原美敬 青木海斗 大田原勉 谷本喜基

【曲 目】G.F.ヘンデル：オラトリオ『メサイア』

【会 場】アイザックスターンホール

【入場料】一般2,000円[会員1,800円] 学割(小学生～大学生)1,000円

親子割(一般+学割)2,500円 ※10月31日までの限定

SPAC—静岡県舞台芸術センター 忠臣蔵

12月26日(木) 開場19:00 開演19:30

SPAC—静岡県舞台芸術センター

日本で最初の「ほんとうの公立劇場」



SPAC(静岡県舞台芸術センター。以下、SPAC)が本格始動したのは、1997年。当時の初代芸術総監督は鈴木忠志さんでした。当時はまだ劇場の公共性についての認識が広まっておらず、SPACの誕生は、「専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団」の設立を意味していました。劇場に芸術家が所属し作品を創造するというのは、海外、特にヨーロッパではよく見られるシステムですが(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の母体も「ウィーン国立歌劇場」所属の管弦楽団です)、日本ではまだまだ珍しい手法です。こうした点でもSPACは国内最先端の劇場かつ劇団だと言えます。こうした先駆的な取り組みが評価され、都道府県の優れた施策を表彰する「先進政策創造会議(全国知事会主催)」の最優秀賞である「先進政策大賞」を今年9月に受賞しました。



特殊な身体を持った俳優による現代口語演劇

現在のSPACの芸術総監督を務めるのは、宮城聡さんです。宮城さんはもともと「ク・ナウカ」という劇団を主宰していましたが、鈴木忠志さんの後を継ぐ形でSPACの芸術総監督になりました。その宮城さんが創作の基礎にしているのが、鈴木忠志さんが編み出した「スズキ・トレーニング・メソッド」です。これは、日本人の身体性を強く意識した演技法と俳優訓練法で、その演劇性の高さから日本のみならず海外でも俳優訓練で用いられています。

これらの特徴をもつSPACと宮城さんに加えて、稀代の劇作家・平田オリザさんが書いた台本によって創られる『忠臣蔵』が普通の「忠臣蔵」ではあるはずがありません。まず、この『忠臣蔵』は討ち入りをクライマックスにしています。「討ち入りまで」や「討ち入り前後」を描くのではなく、武士たちが「討ち入りを決めるまで」が描かれているのです。台詞も時代劇調ではなく、普段私たちが喋っているような「現代口語」が使われています。

SPACが公表しているプロモーション動画(宮崎県立芸術劇場のホームページでも見ることができます)で、宮城聡さんはこう述べています。「(登場人物たちは)人を殺せる身体なのに、実際には書類にハンコを押している。このギャップが最大のポイント」「楽な体でやったら、この芝居は途方もなくありふれたものになる」

公演情報

SPAC—静岡県舞台芸術センター『忠臣蔵』

12月26日(木) 開場19:00 開演19:30

【作】平田オリザ

【演出】宮城聡(SPAC芸術総監督)

【出演者】赤松直美 阿部一徳 大高浩一 奥野晃士 片岡佐知子 桜内結う 下総源太郎 鈴木麻里 関根淳子 永井健二 前田知香 牧野隆二 山下ともち 若宮羊市

【会場】演劇ホール(全席自由)

【入場料】一般3,000円 [会員2,700円] 学割1,500円

SPACにとって2度目の再々演(初演は2000年、再演は2001年)となる今回の公演につけられたキャッチコピーは、「爆笑編」です。2013年の宮崎県立芸術劇場は、いつもとは一味違った『忠臣蔵』で一年を締めくくります。

Message

『忠臣蔵』宮崎公演に寄せて

宮城 聡

僕たちはなんのために生きているのでしょうか。

いやここまで言わないまでも、どういう人生が「良い人生」なのでしょうか？

ひとの失敗を見て「こうならないようにしよう」とかはよく思いますが、「これが人生というものの目的だ」という思いはなかなか得られないですね。

これこそいまの日本人に特有の状況だと言う人もいますが僕はそうは思いません。自分は何のために生きているのか？という疑問を抱えているのは人間というものの基本的な特徴です。むしろ、「人生というむなしものをむなしいと知りつつあがく」ことができるかどうか、に分かれ目があるような気がします。

たぶん『忠臣蔵』もそんな話です。

さて、あなたは「あがく」派でしょうか？

宮城 聡(みやぎ・さとし)

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出は国内外から高い評価を得ている。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、また、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開し、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。代表作に「王女メディア」「マハーバーラタ」「ペール・ギュント」など。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビール芸術賞受賞。



藤木大地のCanterabile

Daichi Fujiki

カルチャーショックという言葉があるけれど、ヨーロッパにハタチで初めて足を踏み入れたころ、ぼくはまさにカルチャーショックボーイだった。異文化、異人種、異言語の中での生活に身を置くと、つまり自分の心と体のまわりをとりまく環境はなんにもかが違うのだ。排気ガスのにおいでさえも。

日本に生まれ育ったボーイカガールが一生の職業としてプロのクラシック音楽家を志すことになった場合、ある時点で海外に目が向くのは自然なことであると思う。それは日本では音楽を学べないからではなく、クラシック音楽はヨーロッパで生まれたものだからだ。特にこの10年で、世界的に有名な外国人音楽家の演奏に触れて彼らに憧れるきっかけも、実演、映像、録音を含めて格段に増えたはずだ。



ギリシャでのサマーアカデミー。伝説的カウンターテナー、マイケル・チャンス氏のもとに世界8ヶ国から集まった若いカウンターテナーたち。

さて、日本からの音楽留学を考えたとき、おおよそに分けると、オリジナルの地であるヨーロッパ(イギリス、ロシアを含む)にいくか、ヨーロッパの文化であるクラシック音楽や音楽家

を受け入れ、教育機関もマーケットも発展させてきた、アメリカ大陸(カナダを含む)にいくか、ということになるのが一般的な選択肢であると思う。

ぼくはパヴァロッティに憧れていたので、まず勉強の地としてイタリアを選んだ。つぎにドイツ語圏での仕事を視野に入れ、ウィーン(オーストリア)に移った。

そこで今回いただいたテーマである、“ヨーロッパの音楽教育”について語りはじめたいと思うのだけど、ぼくは海外の教育機関に入ってそこのカリキュラムに沿って音楽教育を受けたことがないので、実際ちよつとわからないのだ。

ただ言えるのは、この国、この都市、この学校に行ったから必ずプロの音楽家になれるわけではないということ。ぼくが日本の大学に行っているころ、1年間のイタリア留学を終えてすごい歌手になって帰ってきた先輩がいた。その先輩は数年後にミラノ・スカラ座に20代でデビューした。ぼくら後輩はみんな、1年間イタリアにいてみれば、彼のようなすごい歌手になれるんじゃないのか、と本気で考えた。結論。そう簡単にはなりません。

でも、強い目的意識、努力と根性、海外生活への適性、そして才能と強運。もしこれらがそろえば、日本で学べるもの以上のことを吸収できるのではないかな。いま海外で音楽教育を受けようと考えているひとに伝えるとすれば、カルチャーショックボーイから図太いオッサンになりかけているぼくは、このように言うと思います。



2013年9月8日
アイザックスターンホール

藤木 大地

2012年、第81回日本音楽コンクール第1位。カウンターテナーとして史上初の優勝者となり、注目を集めた。国際コンクールでの受賞、海外の主要オペラハウスへの出演など、国際的に高く評価されている。宮崎市出身、ウィーン在住。

劇場は、「創る」「表現する」「観る」「感動する」「学ぶ」「支える」人でいっぱい

つながる∞ひろがる

アウトリーチ活動で学んだ音楽の力

私は、平成23・24年度、宮崎県立芸術劇場の音楽アウトリーチ事業で活動しました。劇場を飛び出して(Out)、音楽を届ける(Reach)。この期間、念頭においたことは、どうしたら聴き手に伝わるコンサート、つまり、音楽を通して心が動く空間を提供していけるのか、ということでした。

活動の中で、演奏だけでなく、言葉や絵、体を動かすなど、音楽を伝える方法の幅を広げたコンサートをしました。聴いて下さる方が、その空間と一緒にいたことを肌で感じて頂く、という観点でプログラムを組むことも意識しました。結果、少しずつ聴き手との距離が縮まっていく経験を持つことができました。素直な感想に、率直な体の反応…。音楽はすごい!と感じさせられました。

「音楽の力とは何だと思いますか?」という質問を頂くことがあります。アウトリーチ活動をする中で、音楽は目に見えないものであっても、そこに残るものがある、それが音楽の力だと思うようになりました。

このアウトリーチ事業が拡大され、心の揺さぶられるコンサートが宮崎に溢れることが楽しみです。

有川 清美(ピアニスト)

宮崎大学教育文化学部生活文化課程芸術文化コースを卒業。2005年9月から、フィンランド国立シベリウス音楽院ピアノ演奏科にて研鑽を積み、2008年7月に同音楽院を修了。これまでに、安楽三由紀、阪本幹子、ユハニ・ラーゲルシュベッツ各氏に師事。フィンランド、ルクセンブルク、ドイツのワイマールにてソロや室内楽のマスタークラスを受講。2010年1月には、フィンランドのイーサル音楽祭にて初のソロリサイタルを行う。第8回「宮日音楽コンクール」ピアノ部門大学生の部で最優秀賞を受賞。



出会う場所

8年前、この県立芸術劇場で開催された「せりふよんでみる?」という演劇ワークショップで出会った人と、私は今年、結婚しました。高校では演劇部に所属し、卒業後も続けたいと思い、最初に参加したのがそのワークショップでした。

あれから私は演劇と劇場を通じてたくさんの方と出会い、現在は、平成23年度に参加した戯曲講座の同期生と「演劇創作ユニット 箱庭」という団体を立ち上げ、演劇作品の創作活動を行っています。

演劇と劇場は私にとって、「出会う場所」です。人だけではありません。素敵な作品や音楽に出会い、その時間を誰かと共有すること。またその誰かと、これからの時間を共有していくこと。そうして輪は広がっていくのだと思います。

そんな場所をつくっていく力に少しでもなれたら、という思いで、私はこれからも、舞台に立っていかうと思うのです。

下水流いつみ

宮崎市清武町在住。高校時代は演劇部に所属し、卒業後も会社勤めの傍らフリーの役者として活動を続ける。主な出演作は、劇団こぶく劇場プロデュース公演「空の月、胸の石2011」三股公演・北九州公演('11年夏)、ユニットあんでなプロデュース「ピアントボク」('12年2月)、劇団ゼロQ「29万の雫」宮崎・川南・都城公演('12年3月~'13年1月)、リーディングナウ2012「時計屋の恋」('12年8月)、sputnik「リビング」('13年2月)、リーディングナウ2013「エヒログ?」('13年8月)など。2012年夏「演劇創作ユニット 箱庭」を結成、代表を務める。戯曲の執筆や演出など、活動の幅を広げている。第1回みやざき岡田心平演劇賞受賞。



8月▶10月発売

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 自主事業公演チケット情報

宮崎県立芸術劇場 広報誌 くれつしえんど (2013年10月11日号 vol.112)

企画制作/発行/公益財団法人宮崎県立芸術劇場
印刷製本/北一株式会社 宮崎県太田3-1-13 TEL.0985-15100
宮崎市船塚3-2-10 TEL.0985-12813 FAX.0985-28108

12月7日(土) 開場13:30
開演14:00

チケット発売中

2011年に紫綬褒章を受章し、
2012年には演奏活動50周年を
迎えた前橋汀子の、円熟味を
増した艶やかな音色を、珠玉
の名曲集でお届けします。



プレミアム・セレクト・コンサート#2

ヴァイオリンを聴く〜 前橋汀子の世界

全席指定

一般3,000円(会員2,700円)
学割1,500円 高校生会員1,000円

アイザックスターンホール

©篠山紀信

11月2日(土)

開場15:15 開演16:00

アイザック
スターンホール

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

全席指定 SS席14,000円(会員12,600円) S席11,500円(会員10,300円)
A席8,000円(会員7,200円) B席5,500円(会員4,900円)
C席3,000円(会員2,700円) D席 完売
学割(C席のみ)1,500円 高校生会員1,000円(C席・D席のみ)

詳細は5P

チケット発売中

12月26日(木)

開場19:00 開演19:30

演劇ホール

SPAC-静岡県舞台芸術センター「忠臣蔵」

全席自由 一般3,000円(会員2,700円) 学割1,500円 高校生会員1,000円

チケット発売中

1月12日(日)

開場15:15 開演16:00

アイザック
スターンホール

オルガンとその仲間たちシリーズ2013

メサイア〜開館20周年特別公演〜

全席指定 一般2,000円(会員1,800円) 学割1,000円

詳細は3,4P

チケット発売中

1月18日(土)

開場13:30 開演14:00

イベントホール

'13みやぎの舞台芸術シリーズII

「色彩の泉〜フルートで奏でる∞の響き〜」

全席自由 一般1,500円(会員1,300円) 学割1,000円

チケット発売中

1月23日(木)

開場18:15 開演19:00

アイザック
スターンホール

ベルリン・フィル八重奏団

全席指定 SS席6,000円(会員5,400円) S席5,000円(会員4,500円)
A席3,000円(会員2,700円) B席2,000円(会員1,800円)
学割(B席のみ)1,000円 高校生会員1,000円(A席・B席のみ)

詳細は1,2P

チケット発売中

12月15日(日) 開場10:30
開演11:00

チケット発売中



ブタペスト国際コンクールほか
国内外のコンクール優勝歴を持つ、
日本を代表するオルガニスト
松居直美が待望の来宮!

パイプオルガン プロムナード・コンサート vol.141

オルガン de ブランチ

作曲家シリーズ：ニコラウス・ブルーンス

出演：松居直美

全席自由 小学生以上500円
親子チケット]500円(小学生とその保護者の2人1組)

アイザックスターンホール

公演後は、オルガンワークショップ「楽器の王様に会おう!」と松居直美さんによる「公開レッスン」を開催します!詳細は劇場ホームページをご覧ください。

★10:15〜

オープニング



開館20周年を記念して、この日のために作曲
された特別なファンファーレをお披露目します!
参加者には、先着でプレゼントもあります★

★11:00〜

コンサート

アイザックスターンホール

パイプオルガン・プロムナード・コンサート vol.140

0歳からのパイプオルガン 「オルガンのハッピーバースデー」

全席自由 3歳以下無料 4歳以上500円

なかよしチケット 500円(4歳以上〜大人までの2人1組)

終演後は、パイプオルガンの近くまでいけるミニワーク
ショップを開催!(応募者多数の場合は抽選)

★14:00〜

パイプオルガン特別イベント

つくった人にきてみよう!製作者によるトーク&ミニコンサート 無料

チケット発売中

宮崎県立芸術劇場は
20歳の誕生日を迎えます!

20年分のありがとう!

開館日 フェスタ

いつもの劇場がお祭り空間に大変身!

2013年11月23日(土)

10:15-18:00

★16:00〜

コンサート

演劇ホール

ブラスの祭典

宮崎県内の小学生〜高校生の
ブラス子総勢約300名によ
る華やかなブラスの祭典!

全席自由 一般1,000円 学割500円



★13:30〜

演劇

イベントホール

前夜祭として
22日(金)19:30
にも上演します

わたしのいちばんうれしい日

全席自由 一般1,000円(当日1,500円) 学割500円



県民の皆さまからご応募いただいたエッセイと取材
をもとに、26市町村の「うれしさ」にまつわる26の物
語を1つの作品にして上演!

高校生無料会員募集中! 詳しくはHPへ

Attention (ご注意)

・学割の対象は、小学生〜大学生です。(注:開館日フェスタの学割は小学生〜高校生が対象です)
・未就学児の入場はご遠慮ください(0歳からのパイプオルガンを除く)
・当日券が出る場合は500円増し(学割を除く)になります。・記載情報は変更になる場合があります。

お問合せ



宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚3-210
TEL.0985-28-3208

http://www.medikit-ac.jp/
FAX.0985-20-6670

